野田村支援交流活動

いつも多大なるご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。本学ボランティアセンターでは、東日本大震災以降、甚大な被害に見舞われた岩手県九戸郡野田村への支援・交流活動を今日まで継続しております。本活動は、学生と市民、そして行政が一体となって取り組んでおります。

昨年度は、夏祭り、夏休み宿泊学習会、クリスマス会、追悼式への参列を計画いたしました。しかし、夏祭り宿泊学習会とクリスマス会は、悪天候であったため、学生の安全を第一に考え、中止といたしました。

夏祭りには、本学学生 13 名、一般市民 14 名、本学教職員 1 名の計 28 名が参加し、縁日コーナーや棒パンづくり、盆踊り大会の運営補助を行いました。また、本学からジャズ研究会が参加し、演奏を披露いたしました。当日は、野田村の子どもたちや親子連れの方々が訪れ、弘前市民や学生の皆さんとの交流を楽しんでおりました。そして、東日本大震災から 14 年目となる 3 月 11 日には、ボランティアバスを出し、学生、市民とともに現地での参列を実施しました。

東日本大震災から 14 年の歳月が経過し、復興は着実に進んでいるように見えますが、心の復興やコミュニティの再生は今なお重要な課題です。私たちは、震災によって止まった時間を取り戻しながら、被災地に寄り添い、被災者の皆さま、弘前市民、そして学生たちの笑顔があふれる活動を継続してまいります。また、震災の教訓を忘れず、次の世代へと伝えていくために、今後も継続して活動を実施していく所存です。引き続き、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

弘前大学地域創生本部ボランティアセンター長
人文社会科学部 教授 李 永俊

平素より、皆様には多大なるご支援、ご協力を賜っておりますこと、心より感謝申し上げます。弘前大学地域創生本部ボランティアセンターで、学生事務局として企画、運営、活動に携わっております、清水遥仁と申します。

当センターでは、かねてより岩手県九戸郡野田村への支援・交流活動、また対面・オンラインでの学習支援、通学路の除雪などのボランティア活動を行っております。

東日本大震災発災当時から続く、野田村との交流は今年で 14 年目となります。昨年は天候に恵まれず、残念ながら宿泊支援事業、またクリスマス会の実施を見送ることとなりました。

そのような状況の中、昨年 7 月に実施いたしました「野田村夏祭り支援事業」におきましては、本学のジャズ研究会を招致し、演奏や食事を通して、住民の方々とコミュニケーションをとり、楽しいひと時を過ごすことができました。

また、総合文化祭では、野田村支援交流活動の広報のため「野田村 café」を出店し、野田村の特産品「のだ塩」や、山ぶどうピューレを使用したアイスクリームの販売を行いました。多くの方にご賞味いただき、当事業について関心を寄せていただけたことと存じます。

活動の中で、先輩方から脈々と受け継がれてきた、住民の方々との信頼関係を実感し、これを絶やさず後の世代に繋げていくためにも、まずは来る令和 7 年度の活動に向け、精力的に取り組んで参ります。

最後に、ご支援をいただきました皆様に重ねて御礼申し上げますと共に、今後ともご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

弘前大学人文社会科学部 1 年
清水 遥仁